



令和3年度

# 教育行政執行方針



教育長 佐々木 昌子

令和3年第1回鹿部町議会定例会の開会にあたり、教育委員会所管に関する執行方針について申し上げます。

今日の社会は、人口減少や少子高齢化の深刻な課題を抱え、一方、人工知能やビッグデータ、IoTなどの先端技術の急速な高度化により、社会の変化は複雑です。また、昨年から新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、学校の臨時休業措置や感染拡大防止対策など、これまでにならぬ経験をし、今なお終息の見えない厳しい状況が続いています。

令和3年度は、人口減少や少子高齢化の深刻な課題を抱え、一方、人工知能やビッグデータ、IoTなどの先端技術の急速な高度化により、社会の変化は複雑です。また、昨年から新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、学校の臨時休業措置や感染拡大防止対策など、これまでにならぬ経験をし、今なお終息の見えない厳しい状況が続いています。

今日の社会は、人口減少や少子高齢化の深刻な課題を抱え、一方、人工知能やビッグデータ、IoTなどの先端技術の急速な高度化により、社会の変化は複雑です。また、昨年から新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延により、学校の臨時休業措置や感染拡大防止対策など、これまでにならぬ経験をし、今なお終息の見えない厳しい状況が続いています。

## 学校教育の推進

はじめに、学校教育の推進について申し上げます。

小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から完全実施される新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指す三つの柱である「生きていく知識・技能の習得」、「未知の状況にも

対応できる思考力・判断力・表現力等」、「学びを生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養」の育成を求められています。

社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0時代の到来や新型コロナウイルスの感

染症拡大で先行き不透明など、急激に変化する時代の中で、鹿部町の子どもたちが自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる

他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生

を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することに努めます。

小学校においては、令和2年度から3、4年生で外国語活動が新設され、5、6年生が「外国語科」とし

ての教科となったことから、A・L・Tをより効果的に活用するとともに、中学校の英語教諭の乗り入れ授業を実施していますが、令和3年度においても継続し小

学校の外国語教育の充実に努めます。

また、プログラミング教育についても令和2年度から必修化されたことから、小学5、6年生を対象としたプログラミング講座を実施し、子どもたちが将来どのような職業に就くとしても、時代を超えて普遍的に求められる力としての「プログラミング的思考」である論理的に考えていく力を育成するよう努めます。

中学校においては、生徒の生活環境調査や実態分析により「主体性の欠如」が大きな課題であることから、令和2年度に「自らを

律し 自分を高める 生徒

の育成」を教育目標とし、「自立した生活」、「主体的な活動」を求めて教育実践を進めてきましたが、更なる充実を図り、主体性を育む教育活動の質を高めるため令和3年度も継続して取り組みます。

## ICT教育の推進

ICT教育については、情報活用能力を育成するため、国のGIGAスクール構想に基づき、令和2年度において、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用を目的に、一人1台のコンピュータ端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備しましたので、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化された学びを持続

的に実現させるため、情報活用能力が言語能力や問題発見・解決能力等と同様に、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ります。

また、国のGIGAスクール構想による一人1台端末整備とは別に、鹿部町独自で児童生徒に一人1台タブレット端末を配付し、「いつでも」「どこでも」学習でき、繋がることができ、環境を整備しましたので、GIGAスクール構想と併せ有効に活用します。

## 特別支援教育

特別支援教育については、引き続き、特別支援教育支援員を小・中学校にそれぞれ配置し、共生社会の形成に向けて、各学校、関

係機関と連携を密にし、児童・生徒一人一人の特性や教育的ニーズに応じた指導やきめ細かな支援の充実を図ります。

また、切れ目のない一貫した支援を行うため、「個別の教育支援計画」の活用や研修により専門性の向上を図ります。

## 防災教育

防災教育については、幼稚園、小・中学校それぞれで噴火や津波等を想定した避難訓練を実施しています

が、令和元年度から幼稚園と小学校が連携し実施している合同避難訓練、また、授業を通して児童生徒の防災に対する意識の高揚を図ることを目的とした「1日防災学校」を小・中学校で令和3年度も継続して実施

## 教材費の無償化

します。

幼稚園、小・中学校における教材費の無償化については、引き続き実施し、中学校における英語技能検定の助成についても、生徒の英語における学習意欲の向上が見られることから、引き続き実施し、保護者負担の軽減を図ります。

## 教職員の働き方改革及び資質向上等

学校における教職員の働き方改革については、業務の質を高めるとともに、日々の生活等を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を

行ってもらうため、「学校における働き方改革アクション・プラン」の取組みを教育委員会、校長会、教頭会が協議して学校閉庁日の設定、部活動における休養日の設定、スクール・サポート・スタッフ及びスクールカウンセラー、学習指導員を配置しています

が、さらなる教職員の勤務時間削減に向けた取組みを推進します。

また、令和3年度も教職員自身のストレスへの気付き及びその対処への支援並びに職場環境の改善を通じて、メンタルヘルス不調となることを未然に防止する一次予防を目的として、教職員に対して心理的な負担の程度を把握するための検査であるストレスチェックを実施します。

教職員の資質向上については、教育の成果は教職員

の確かな専門性と豊かな識見を持ってして、それぞれの教育現場で実践し成果となつて表れますことから、授業の研究や校内・校外での各種研修会への派遣や積極的な参加を促すとともに、小・中学校における遠隔・オンライン教育を含むICTを活用した学びはこれから不可欠であることから、教職員のICT活用指導力向上のため、研修機会の充実を図ります。

また、鹿部町教育研究所による研究・研修の実施と自主的に組織する校長会や教頭会の活動は重要であるため、引き続き支援し、鹿部町の教育の向上に努めます。

特に、鹿部町教育研究所では現在、『社会に開かれた教育課程』の実現を目指した幼小中の連携」を重点目標として、幼小中の連

携・一貫教育を見据えた活動の推進や学力向上の充実を図る研究の推進等について調査・研究するとともに、実効性の高い取組みを推進しています。

教育委員会としまして、鹿部町教育研究所の取組等について検証・検討を重ね、現在実施しています幼小、小中といった学校間の円滑な接続や教科等の横断的な学習を重視し、より深い連携を継続しながら、鹿部町に相応しい学校の形や在り方についてしっかりと検討します。

各学校の施設の整備については、中学校でアスベスト含有断熱材を使用している煙突の改修工事を実施するとともに、小・中学校校

### 施設及び設備等の整備

舎では、経年による不具合箇所の修繕を行います。

また、幼稚園については、園舎の老朽化が顕著でありますので、民設民営の「公私連携幼保連携型認定こども園」で整備する方向で、今後建設予定地等について町部局及び議員皆様と協議しながら早急に建替えを進めたいと考えています。

### 学校給食

学校給食については、子どもたちにとって身体の成長を促すばかりではなく、学校生活において楽しみな時間であると認識していることから、引き続き地場産食材の購入費用について一部公費負担をして、安心・安全で美味しい給食を提供します。さらには、今後も引き続き衛生面等において

危機管理意識をもって運営管理するとともに、令和3年度は老朽化した調理用備品の更新を図ります。

### 社会教育の推進

よう、幼児から高齢者までのニーズに対応した学習機会の提供と学習の成果が地域活動で生かされる環境づくりに努めます。

次に、社会教育の推進について申し上げます。急激な人口減少や少子高齢化を要因とするコミュニケーションの希薄化が全国的な課題となる中、「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」を進める社会教育の役割は、重要度を増しています。社会教育事業を通して人が持つ能力や可能性を高め、急速に変化している社会に対応できる知識や能力を身に付けることにより、その力を地域の課題解決や新たな活動につなげるとともに、積極的に地域活動に参画することができ

幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期であることから、子どもの成長を保護者が見直す、見つめる機会を設けるため、「家庭教育学級事業」を実施し、子どもの生活習慣、自立心の育成、心身の調和が取れた発達を促します。

また、子どもの健やかな成長を願い、親子が絵本を介して心触れ合うきっかけづくりとなる「乳幼児ブックスタート事業」について引き続き支援します。

小・中学生を対象とした「しかべっ子教室」では、思いやりのある豊かな心を育むと同時に、集団生活のルールを学び、前向きに生

活する力を身に付けるため、様々な体験活動、異学年交流や地域住民との交流等を実施します。

町の将来を担う青年活動の活性化は、まちづくりにおいて欠かせないものとなつていきます。青年団体が主体的に行う活動を支援し、人材育成を図ります。

今日まで地域で大切に守り伝えてきた伝統文化は、ふるさとを愛する心や郷土を誇りに思う気持ちにつながる町民の大切な財産であります。鹿部小唄等の保存をはじめとする、ふるさと教育の充実と努めます。

多様な経験と見識を持つ高齢者が、さらなる学びを通じて研鑽を積み、地域社会で生き生きと活躍していただくため、「シルバーカレッジ」を中心とした学習機会の充実を図ります。

多くの町民が気軽に本に

親しむ公民館図書室機能の充実に向けて、図書管理システムを更新し、一層円滑

な蔵書管理や貸出管理業務等による読書活動を推進するほか、子どもにとっての読書は言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠かせないものであることから、子ども

が自主的に読書に親しみ、生涯にわたる読書習慣を身に付けることができるよう、学校図書館の活用の実を図り、それを支援する人材の派遣を継続して進めます。

芸術文化活動については、文化団体が中心となつて活動していますが、日頃の練習成果を広く町民に知ってもらえる機会づくりとして、「文化祭」や「子ども芸術祭」の運営に関

し、関係団体と連携して取り組みます。

また、優れた舞台芸術や音楽等に触れる機会を広げるため、「芸術鑑賞会」を開催し、広く町民に観劇していただく場を作ります。

小学生を対象とした「鹿部キッズクラブ」、幼稚園児を対象とした「預かり保育ひまわり」や0〜2歳児を対象とした「ひよこ」では、保護者が就労等により家を留守にする場合に、安心・安全に子どもを預けることができるよう、引き続き子育て支援に取り組みます。

次に、社会体育の推進について申し上げます。少子高齢化が進む中、年齢、性別、体力や技術に関

## 社会体育の推進

わらず、誰もがスポーツやレクリエーション活動に取り組みことができる環境づくりが重要となっております。

このため、各種スポーツ教室など日頃からスポーツに親しむ機会を提供するとともに、スポーツ推進委員、スポーツ協会や関係団体と協働し、町民ニーズに対応できる指導者の養成と大会の運営に対する支援を進めます。

スポーツ少年団活動については、優先的に練習の場を確保する等、日常的な活動をサポートするとともに、町主催の大会を開催し、他市町で同じスポーツに取り組む子どもたちとの交流を促すことで、技術力の向上や意欲の向上につながるよう努めます。

公民館、スポーツ施設については、管理方法を見直すことで経費節減に努

めつつ、町民がいつでも気軽に安心して利用できる利用者の視点に立った維持管理に努めます。

以上、令和3年度の主要な施策を申し上げます。教育委員会としましては、ふるさと鹿部を支える人材育成と町民が生き生きと学び続けることができる環境整備に努めるとともに、学校、家庭、地域と連携・

協働して教育行政の推進に努めていきますので、町民並びに町議会議員の皆様の一層のご支援とご協力を心からお願ひ申し上げます。令和3年度の教育行政執行方針とします。